

初山別地域森林整備の取組について

留萌北部森林管理署

はじめに

当署では留萌振興局、初山別村、遠別初山別森林組合の4者で森林整備協定を締結し、各機関が連携して、①現地検討会、②技術研修会、③木質バイオマス勉強会、④森林教室に取り組んでいます。なお、協定は平成23年に締結し、10年目に入っています。この間、協定の見直しと、3度の更新を行っています。

また、来年度は現協定の最終年度に当たり、次期5年間の取組の具体的な内容を検討する必要があります。

これまでの取組について

協定の締結以降開催した現地検討会では、この協定に基づき設定している道有林と国有林の間伐予定箇所、施業の検討や実行するに当たった課題について意見交換を行いました。その結果、作業コスト、搬出コストの削減に繋がることを目指して道有林と国有林の合同入札

を実施しましたが、それぞれ異なる業者が落札したため、残念ながら成果は限定的なものとなりました。



合同入札箇所の伐採

技術研修会では、協定を締結している4者の機関に参加者を限定せず、広く管内の林業関係者の技術向上を目的に、北海道大学天塩研究林で36年生のアカエゾマツの造林地の見学や天然更新表土戻し試験地、天然更新エゾマツ刈出し、カンバ強度間伐試験地などを視察しました。現在国有林で取り組んでいる「天然力を活用した多様な森林づくり」に活かしていきたいと思えます。

木質バイオマス勉強会では、下川町より「一の橋

地区バイオビレッジ構想」について話を伺いました。この地区では、給湯や暖房を木質バイオマスボイラーから集住化住宅へ供給するなど、エネルギー自給型集住化エリアを整備することで集落の再生を目指しているところです。



カンバ強度間伐試験地

森林教室では、4者が連携して、小学生を対象に森林調査の体験として、樹木の直径や高さを機器を使った計測を実施しました。また、樹木の名前や特徴、人間生活とのかかわりについても説明しました。

今年度においてもこのような技術研修会、森林教室の開催を検討していますが、新型コロナウイルス

感染症の防止のため実施を見合わせました。



森林教室

今後に向けて

当地域は、木材の搬出や森林整備が小規模で分散的に行われ、施業の集約化が進んでいません。

こうした状況を踏まえ、引き続き森林共同施業団地において、作業コストや搬出コストの削減に向けた現地検討会等の取組をはじめ、北大研究林、民有林あるいは社有林での技術研修会の実施によるスキルアップなど、関係機関で連携し、地域の課題解決に向け、引き続き取り組んでいきたいと考えています。